K.Miura

THE SPORTS NIPPON SHO STAYERS STAKES　第58回 スポーツニッポン賞 ステイヤーズステークス（GⅡ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	62,000,000円	25,000,000円	16,000,000円	9,300,000円	6,200,000円
付加賞	994,000円	284,000円	142,000円		

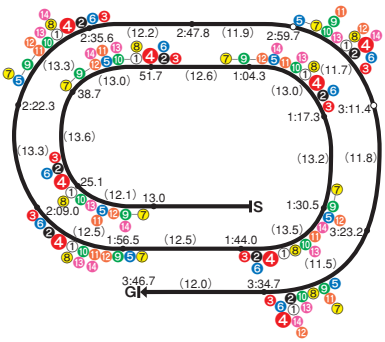
レース映像はコチラでご覧いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　3歳55*▫4歳以上57*▫、牝馬2*▫減、2023.12.2以降ＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬2*▫増、牝馬限定ＧⅠ競走またはＧⅡ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*▫増、2023.12.1以前のＧⅠ競走（牝馬限定競走を除く）1着馬1*▫増（ただし2歳時の成績を除く）

2024.11.30　中山　晴・良　芝3600ﾒｰﾄﾙ　（国際）（特指）

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム（着差）	コーナー通過順位	上り（600ﾒｰﾄﾙ）	馬体重（増減）	単勝オッズ	調教師	ﾚｰﾃｨﾝｸﾞ
1	④	シュヴァリエローズ	牡6	58	北村友一	3:46.7	4-4-3-2	35.1	462（－6）	3.6②	清水久詞（栗東）	111
2	⑬	シルブロン	牡6	57	T.マーカンド	ハナ	7-8-9-8	34.8	500（＋12）	102.0⑫	稲垣幸雄（美浦）	108
3	①	ダンディズム	騸8	57	戸崎圭太	1¾	5-5-6-4	35.3	472（－4）	12.3⑥	野中賢二（栗東）	106
4	⑭	ゴールデンスナップ	牝4	55	坂井瑠星	アタマ	9-5-3-4	35.4	468（－6）	3.5①	田中克典（栗東）	102
5	⑦	メイショウブレゲ	牡5	57	酒井　学	ハナ	14-13-13-11	34.7	468（－4）	10.8⑤	本田　優（栗東）	
6	⑫	サンライズソレイユ	牡3	55	菅原明良	½	11-10-6-4	35.4	512（±0）	38.3⑩	矢作芳人（栗東）	
7	⑪	マイネルケレリウス	牡4	57	石川裕紀人	クビ	9-10-10-11	35.0	428（＋6）	21.0⑧	奥村　武（美浦）	
8	③	アイアンバローズ	牡7	58	石橋　脩	1	1-1-1-1	35.9	508（ — ）	5.5③	上村洋行（栗東）	
9	②	フルール	牝4	55	荻野　極	1	3-3-3-4	35.8	498（－2）	18.4⑦	上原佑紀（美浦）	
10	⑨	フォワードアゲン	騸7	57	内田博幸	クビ	12-12-10-11	35.4	444（±0）	292.7⑭	加藤和宏（美浦）	
11	⑤	クールミラボー	牡4	57	横山武史	2½	13-13-14-14	35.3	492（±0）	37.3⑨	寺島　良（栗東）	
12	⑩	フェーングロッテン	騸5	57	北村宏司	1¼	7-8-10-8	36.1	460（－4）	105.8⑬	宮本　博（栗東）	
13	⑥	ミクソロジー	牡5	57	西村淳也	1½	2-2-2-2	36.8	440（－8）	6.9④	辻野泰之（栗東）	
14	⑧	ウェルカムニュース	牡5	57	W.ビュイック	7	5-5-6-10	37.7	496（－6）	48.4⑪	池江泰寿（栗東）	

単勝④360円（2ﾍﾞｽﾄ）　複勝④170円（1ﾍﾞｽﾄ）　⑬1,100円（12ﾍﾞｽﾄ）　①270円（5ﾍﾞｽﾄ）　枠連③-⑧420円（1ﾍﾞｽﾄ）
馬連④-⑬19,340円（42ﾍﾞｽﾄ）　ワイド④-⑬4,690円（43ﾍﾞｽﾄ）　①-④760円（8ﾍﾞｽﾄ）　①-⑬10,510円（61ﾍﾞｽﾄ）
馬単④-⑬25,160円（70ﾍﾞｽﾄ）　3連複①-④-⑬47,370円（119ﾍﾞｽﾄ）　3連単④-⑬-①252,340円（609ﾍﾞｽﾄ）
5重勝⑫⑨⑧⑨④372,360円（602票）　対象競走：京都10Ｒ／中山10Ｒ／中京11Ｒ／京都11Ｒ／中山11Ｒ



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 38.7 - 800ﾒｰﾄﾙ 51.7 - 1000ﾒｰﾄﾙ 1:04.3　上り：800ﾒｰﾄﾙ 47.0 - 600ﾒｰﾄﾙ 35.3

アラカルト

- 北村友一騎手はステイヤーズＳ初勝利。ＪＲＡ重賞は24年6勝目、通算33勝目
- 清水久詞調教師はステイヤーズＳ初勝利。ＪＲＡ重賞は24年5勝目、通算28勝目
- ディープインパクト産駒はＪＲＡ重賞通算295勝目
- 6歳馬の勝利は22年シルヴァーソニックから3年連続、通算10回目

シュヴァリエローズ *Chevalier Rose*

牡　鹿毛　2018.5.4生
北海道安平町　ノーザンファーム生産
馬主・㈲キャロットファーム　栗東・清水久詞厩舎
馬名意味・薔薇の騎士(仏)。母名より連想

ヴィアンローズFR系　F7-c

ディープインパクト 鹿毛　2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛　1986	Halo
		Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛　1991	Alzao
		Burghclere
ヴィアンローズFR Viane Rose 青鹿毛　2002	Sevres Rose 鹿毛　1993	Caerleon
		Indian Rose
	Princesse de Viane 鹿毛　1995	Kaldoun
		Life On The Road

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

木村純一厩舎長(ノーザンファーム空港)

完璧なレース運びを見せてくれました

初めてのマラソンレースながら、道中は折り合いも含めて完璧なレース運びを見せてくれました。直線で抜け出した時には勝てると思いましたが、後ろからシルブロンが追い込んできた時には、交わされたのではとも思いました。着差は2㌢でしたが、今後を考えるととても大きな差だったと思います。25年以降も芝のロングディスタンスでの活躍が期待できそうです。

父ディープインパクト

北海道早来町　ノーザンファーム生産　中央、仏14戦12勝(ジャパンC^{G_I}、日本ダービー^{G_I}、皐月賞^{G_I}、菊花賞^{G_I}、有馬記念^{G_I}、天皇賞(春)^{G_I}、宝塚記念^{G_I})、年度代表馬2回、07年から供用、19年死亡。12～22年日本リーディングサイヤー。10～14、16～21年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕**コントレイル**、**ジェンティルドンナ**、**グランアレグリア**、**シャフリヤール**、**ロジャーバローズ**、**ワグネリアン**、**マカヒキ**、**キズナ**、**ディープブリランテ**、**サトノダイヤモンド**、**ミッキークイーン**、**ディーマジェスティ**、**アルアイン**、**フィエールマン**、**ワールドプレミア**、**アスクビクターモア**、他に^{G_I}勝ち馬多数

母ヴィアンローズFR

仏10戦4勝(ノネット賞^{G_3}、フィンランデ賞L、プシケ賞^{G_3}2着、ロゼドメ賞・L2着)、06年輸入、23年用途変更

ディアシークレット(07 騸父フジキセキ)中央11戦0勝、地方3戦2勝
アドマイヤナシュア(08 牡父アグネスタキオン)不出走
ローズノーブル(09 牝父ディープインパクト)中央22戦4勝(STV賞)、**ジュビリーヘッド**(カーバンクルS^{O_P}、函館スプリントS$^{G_{III}}$2着2回)の母
ローズミラクル(10 牡父フジキセキ)中央24戦3勝(アクアマリンS、福島中央テレビ杯、韋駄天S^{O_P}3着)、地方1戦1勝
ローゼクヴァルツ(11 牝父スペシャルウィーク)中央11戦0勝
グレイトフルデッド(12 牝父ハーツクライ)中央1戦1勝
アジュールローズ(13 牡父ヴィクトワールピサ)中央13戦3勝(プリンシパルS^{O_P})
ジューンソリドール(14 牡父ゴールドアリュール)中央6戦0勝、地方65戦8勝
ライレローズ(15 牝父ディープブリランテ)中央22戦1勝、地方15戦1勝
アーズローヴァー(16 牝父キンシャサノキセキAUS)中央24戦3勝(知立特別)
シュヴァリエローズ　本馬(18 牡父ディープインパクト)中央31戦5勝(ステイヤーズS$^{G_{II}}$、京都大賞典$^{G_{II}}$、萩S・L、寿S、目黒記念$^{G_{II}}$2着、福島民報杯・L2着、若葉S・L2着、メトロポリタンS・L3着)
獲得総賞金282,667,000円

マイレッドスター(19 牡父キタサンブラック)中央7戦1勝、地方6戦3勝
アルジャヒリ(21 牡父アルアイン)中央4戦0勝、地方7戦0勝
カザンラク(22 牡父シルバーステート)中央1戦1勝 ㊐
(23 牝父アルアイン)
※17(流産)、20(不受胎)

ハナ差の接戦を制して重賞連勝

暮れの中山開催の開幕を飾るマラソン競走、平地最長距離のステイヤーズSでは、インターフラッグが勝った1998年、ホットシークレットが制した2002年と過去に2回、ハナ差の決着が記録されている。2番人気のシュヴァリエローズと、12番人気の伏兵シルブロンが鼻面を並べてゴールに飛び込んだ24年のレースは、史上3回目のハナ差でのフィニッシュ。約2㌔センという僅差の攻防にはシュヴァリエローズが競り勝ち、中長距離の舞台で未知の資質を開花させた6歳馬が、前走の京都大賞典に続く重賞連勝を飾った。

連覇に挑む古豪アイアンバローズが軽快なダッシュで飛び出し、主導権を奪取。中盤から大逃げの形に持ち込んだ1年前とは異なり、後続を引き付けて落ち着いたラップを刻みながらレースを引っ張る。シュヴァリエローズの北村友一騎手は4番手を追走。阪神大賞典5着、古都S2着と、3000㍍戦で好走を重ねてきた長距離実績を評価され、格上挑戦ながら1番人気の支持を集めたゴールデンスナップは後方を進んだが、2周目の向正面に差し掛かるとシュヴァリエローズの直後まで進出し、追撃態勢を整えた。

一方のアイアンバローズは向正面半ばからペースアップ。このロングスパートに真っ向から応戦、手綱を押して前に迫った北村騎手は直線入口で早くも先頭に躍り出る。ゴールデンスナップをはじめ、これに続いた面々はもうひとつ伸び切れず、かわってシルブロンが外から強襲。勝負の行方はもつれたが、フィニッシュラインを僅かに早く捉えたのはシュヴァリエローズの鼻先だった。

4歳時の1月に3勝クラスを卒業した後は長い足踏みを重ねた本馬だが、2000㍍超えの中長距離戦に照準を定めてから成績が安定。前走の京都大賞典で重賞初制覇を果たした。この日も6歳を迎えて開花した長距離適性を存分にアピールし、GⅡを連勝。今もなお、大きな存在感を示すディープインパクト産駒の〝最長距離砲〟として、頂点のタイトルを狙う存在に躍り出た。

Photostud